



2020 OLIVE ニュース 4月号

月刊紙

5月の予定: 25日 理事会

ジレンマの日々

▼世界を震撼させた新型コロナウイルス、私たちは今何を体験しているのだろうか。全て自己責任が問われる難題に直面している。自分の行動、自分の決断、我慢の中でジレンマに襲われない人はいないだろう。ステイホームの勇気が誰を守るか皆が分かっている。私たちはこのような思いで暮らした事があっただろうか、また見えないウイルスが人に感染していく怖さを想像したことがあっただろうか。映画の世界さながらの現実には人類生存の危機さえ頭をよぎります。飢餓、貧困、暴走を想像、イメージできないければ自分の都合で「もう大丈夫じゃないのか」と、自粛している事を批判するようになるし、隣の誰かに左右されるでもなく、他と比較するのであれば無責任発言になります。何が大丈夫なのか、その目安は時の総理さえ言及出来ないのです。一方、中国では再度陽性になる人が出て来ました。陰性と言えども、予断は許されません。「三密」「濃厚接触者」「クラスター」それらはマスクや消毒、手洗いそしてステイホームで守り切れるか。PCR検査もままならず、国の迅速な決断が望まれます。

障がいの方々をご自宅で見えておられるご家族の皆様はどれほど大変か理解しております。しかしながら多くの保護者の皆さまから「仕方がない」事情である事にご理解を頂いている事は感謝です。ご不便をおかけしておりますが、どうかご理解頂きます様よろしくお願ひし、皆様のご健康を祈るばかりです。

(理事長 遠藤 節子)

自宅待機のご協力を

3月から短縮営業を行い、4月には安全を考え事業所を休業致しました。自粛要請が続く中、皆様のストレスは募るばかりと思います。しかし、「明日は我が身」といつ誰が感染してしまうかわかりません。どうか他人事とは考えず一人一人が意識する事で少しでも感染を抑えることに繋がります。もうしばらくは皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご協力の程よろしくお願ひ致します。

命を守る選択をしました

連休後の事業所再開に向けて、緊急職員会議が2度にわたり開催されました。

「国は緊急事態宣言を延長」、「福島県も同様の判断をする」との決定がなされましたが、現場で支援を行う職員からも、命を守ることを最優先すべきだとの声が多数を占めました。

自分が感染源となり、基礎疾患を持った父や母、小さな子供、障がい故免疫力が低い利用者につついたらどうしようとの言う意見です。

事業所を休業することは、事業所収入が減り、自分の給料にも響くこと、それでも命の方が大事だと・・・

10万円の給付金が出るようなので、それを充てますという職員・・・

私たち職員は、「命を守る」選択をさせて頂きました。

日本にお住いの、すべての方へ、お一人につき

10万円の特別定額給付金

はじまります

いわき市でも、給付金の受け取り申請が、連休明けから始まります。

【受け取るまでの流れ】

- ①市役所から申請書が郵送されてきます
- ②世帯主の住所、氏名などを書きます
- ③振込む銀行名、口座番号等を書きます
- ④申請書に身分証明書・通帳のコピーを貼りつけ返信用封筒に入れて郵送します

これで手続きは終わりです。

【注意すること】

※申請は世帯(家族単位)で行います
あらかじめ受取る人の名前が印刷されていますので、漏れがないか確認しましょう。
分からないことがありましたら、お気軽にお電話ください。

三密を避ける生活を心がけましょう

①換気の悪い
密閉空間



②多数が集まる
密集場所



③身近で会話や
発声をする
密接場面

